



24日、バンコクで開かれたアジア防災閣僚級会合の関連イベントでパフォーマンスをする菅原彩加さん(中央)(共同)

「再び希望を」詩に込め

タイ防災会議で被災学生

【バンコク共同】「被災地に再び希望を」。タイの首都バンコクで24日、防災戦略を話し合うアジア防災閣僚級会合が開幕した。初日の関連イベントで、東日本大震災で被災した大学生らが自分たちで詠んだ詩を披露し、被災地の思いを世界に発信した。

会合には日本など約60カ国から3千人以上が参加。来年3月に仙台で開かれる国連防災世界会議に向け、

自然災害が多発するアジア各国の経験を共有し、被害の拡大防止に役立てる狙いだ。「子どもと若者のフォーラム」と題したイベントには、本県と宮城県の大学生ら5人が参加。タイやインドネシアなどの若者と共に自然災害を題材としたパフォーマンスを行った。

宮城県出身の東北大2年 穀田龍二さん(21)と、震災後にスイスの高校に留学した菅原彩加さん(18)は日本

語と英語で詩を朗読。「僕たちの未来。国、人種、言語を超えて助け合う世界」などと読み上げた。

タイで政情不安が続いていることから参加を見送った福島高専3年、加井佑佳さん(17)はビデオで「福島の子どもたちは放射能といつまで闘わなければいけないのか」という不安を抱えていると訴えた。

会合は26日まで。防災協力の重要性をうたったバンコク宣言を採択して閉幕する見通し。